

震度7に 60回 耐えた家。

創立以来40年以上、大地震の揺れから大切な家族の安全を守り続けてきた三井ホーム。しかし三井ホームは、この実績に決して満足していません。最新の実験では、プレミアム・モノコックGで震度7連続60回にも耐え抜きました。その強さを生み出すのは、「プレミアム・モノコック構法」。6面体構造で衝撃を分散させる、三井ホームだけの独自技術です。地震があったとき、いちばん揺らいではいけないのは、そこに住む家族の暮らしだと思うから。それを守りぬくために、私たち三井ホームは、技術と知恵をどこまでも磨きつづけていきます。

過酷な耐震実験で強さを実証。

国立研究開発法人土木研究所 実物大震動実験 実施 (6/2~3、7/11~13)

※気象庁・熊本県のご厚意により熊本地震波データをご提供いただきました。

加振最大加速度 **5,115gal**[※]

地震の瞬間的な衝撃力の大きさを表す単位である「gal」に関して、世界の地震観測史上最大値である4.022galを上回る衝撃に耐えぬきました。(熊本地震:1.580gal/東日本大震災:2.933gal/阪神・淡路大震災:891gal)
※ 入力地震動の数値ではありません。実験時に振動台で計測された実測値です。

加振最大速度 **231kine**^{※1}

地盤の揺れの速さを表す単位である「kine」に関して、熊本地震で震度7を観測した益城町の186kine^{※2}を上回る振動にも、構造に損傷はありませんでした。(東日本大震災:106kine/阪神・淡路大震災:112kine)

※1 入力地震動の数値ではありません。実験時に振動台で計測された実測値です。※2 三井ホーム解析値

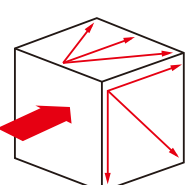
震度7連続加振回数 **60回**

震度7を2回連続で観測し、前例のない大災害となった熊本地震。三井ホームは、その30倍に及ぶ回数の震度7に挑戦し、強さを実証しました。

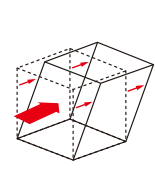
(熊本地震、東日本大震災、阪神淡路大震災と同等の地震波を含む、震度6強以上の揺れを合計57回加震)



「面」で地震波を分散・吸収するモノコック構造



「軸」で地震波を受ける軸組構法



カタログ請求・モデルハウスに関するお問い合わせは…

☎ 0120-81-2431 9:00~18:00 (水曜日を除く)

三井ホーム株式会社 本社 〒163-0453 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル53階

三井ホーム 耐震

検索



三井ホーム